

定住自立圏構想

中心市宣言書



平成22年12月15日

帯 広 市

中心市宣言

十勝は、北海道の南東部に位置し、周囲を大雪山系、日高山脈、太平洋などに囲まれ、内陸部に広がる十勝平野の中央を流れる十勝川水系や、国内有数の日照時間は、十勝の豊かな恵みとなっています。

十勝は、明治16年に入植した晩成社をはじめとする民間の入植者によって、開拓の鍬が入れられました。先人は、不屈のフロンティア精神によって、幾多の苦難を乗り越え、原始の大地に豊かな耕地を拓きました。以来120年余り、十勝は、その広大で肥沃な土地資源などの優位性を活かし、今日、我が国最大の食料供給基地として、その地位を確立しました。

帯広市は、十勝の中央に位置しており、産業・経済、教育、文化・スポーツ、医療、福祉、交通、行政など、都市機能が集積し、農林水産業を基盤とする十勝の中核都市として発展してきました。また、十勝の町村と日常生活や地域経済において一体的な圏域を形成しており、行政面においても、一部事務組合方式による事務の共同処理など多岐にわたって連携が図られています。

今日、わが国はグローバル化が進展する中で、少子高齢化の進行とともに本格的な人口減少時代を迎えており、特に地方圏においては、今後、その傾向がより一層進むものと予想されています。また、地方分権の進展により、基礎自治体である市町村の役割が増し、自治体を取り巻く環境が大きく変化する中であって、地域の意思と責任により自主・自立のまちづくりを進め、安定した地域社会を創ることが大変重要であります。

こうした状況のもと、大都市圏への人口流出を食い止め、地域が持続的に発展していくためには、一つの自治体が全ての機能を担うのではなく、中心市の都市機能や各々の自治体が有する資源、文化・歴史などを活かし、連携・協力と役割分担によって、地域全体の活性化や魅力づくりをすすめ、国内外に発信していく必要があります。

このため、十勝の優位性を活かした地域産業政策「フードバレーとかち」の推進や、地域の安全・安心を支える医療・福祉・環境など様々な分野での連携した取組みを十勝全体ですすめたいと考えています。

帯広市は、十勝の歴史的・経済的な強い結びつきのもと、十勝に暮らす住民の豊かな生活を確保し、十勝の更なる発展と魅力の向上を目指し、ここに十勝の中心的な役割を果たす市として、全力で取り組むことを宣言します。

平成22年12月15日

帯広市長 米 沢 則 寿

1 都市機能の集積状況

本市における公共施設等による各種サービス機能、医療、福祉、教育、文化・スポーツ、産業・経済、交通、その他の行政及び民間分野に係る都市機能の集積状況は、概ね以下のとおりです。

項目	都市機能	施設名等
行政等	国の機関	北海道開発局帯広開発建設部、札幌防衛施設局帯広防衛施設支局、自衛隊帯広地方協力本部、陸上自衛隊第5旅団、釧路地方法務局帯広支局、釧路保護観察所帯広駐在官事務所、釧路地方検察庁帯広支部（帯広・本別区検察庁）、釧路地方裁判所帯広支部、釧路家庭裁判所帯広支部、帯広簡易裁判所、北海道財務局帯広財務事務所、帯広税務署、北海道農政事務所（地域第六課、帯広統計・情報センター）、北海道森林管理局帯広事務所、十勝西部森林管理署、帯広労働基準監督署、帯広社会保険事務所、帯広公共職業安定所、北海道運輸局帯広運輸支局、東京航空局帯広空港出張所、帯広測候所、新千歳航空測候所帯広空港出張所
	道の機関	十勝総合振興局、十勝教育局、十勝機動警察隊、帯広警察署、航空隊帯広分遣隊
	一部事務組合（広域施設）	くりりんセンター、中島処理場、十勝川流域下水道浄化センター
	関係機関（独立行政法人など）	種苗管理センター十勝農場、水産総合研究センター（さけますセンター帯広事務所）、国立病院機構帯広病院、国際協力機構帯広国際センター、北方圏センター帯広国際センター、十勝産業振興センター、十勝圏地域食品加工技術センター、帯広職業能力開発センター
交通	空港・空路	とち帯広空港 帯広⇄東京
	駅・鉄路	帯広駅、柏林台駅、西帯広駅、帯広駅（貨物駅） JR根室本線
	都市間バス	帯広⇄札幌、釧路、旭川、新千歳空港
	路線バス	十勝バス、北海道拓殖バス
	国道	国道38号、236号、241号、242号
	高速道路 高規格道路	道東自動車道 帯広JCT（芽室町）、音更帯広IC（音更町） 帯広広尾自動車道 芽室帯広IC（芽室町）、帯広川西IC、幸福IC
医療	3次救急医療	JA北海道厚生連帯広厚生病院救命救急センター
	2次救急医療	社会福祉法人北海道社会事業協会帯広病院、財団法人北海道医療団帯広第一病院、JA北海道厚生連帯広厚生病院、医療法人社団刀圭会協立病院、医療法人社団博愛会開西病院、社会医療法人北斗北斗病院
	1次救急医療	帯広市夜間急病センター、在宅当番医（社団法人帯広市医師会）
	市内医療機関	病院17機関、診療所109機関、歯科診療所103機関
	災害拠点病院 地域がん診療連携拠点病院 へき地医療拠点病院 総合周産期母子医療センター	JA北海道厚生連帯広厚生病院
	地域周産期母子医療センター	社会福祉法人北海道社会事業協会帯広病院

項 目	都市機能	施 設 名 等
福祉	高齢者・介護施設等	養護老人ホーム 2 施設、特別養護老人ホーム 5 施設、介護老人保健施設 4 施設、介護療養型医療施設 1 施設、(介護・介護予防) デイサービスセンター 30 施設、地域包括支援センター及び在宅介護支援センター 8 施設、ケアハウス 1 施設、生活支援ハウス 2 施設、認知症高齢者グループホーム 29 施設、小規模多機能型居宅介護施設 4 施設、老人福祉センター 1 施設
	障害者施設等	知的障害者更生施設 9 施設、グループホーム・ケアホーム 32 施設、福祉ホーム 2 施設、地域活動支援センター 11 施設
	児童福祉施設等	知的障害児施設 1 施設、知的障害児通園施設 1 施設、発達支援センター 1 施設、児童養護施設 1 施設、重度心身障害児施設 1 施設、認可保育所(市立：10 施設、法人立：16 施設)、児童保育センター 27 施設、助産施設 2 施設
	その他の社会福祉施設等	救護施設 1 施設、無料低額診療施設 2 施設、更生保護施設 1 施設、点字図書館 1 施設、盲人ホーム 1 施設
教育	大学	帯広畜産大学、航空大学校帯広分校 放送大学帯広学習室、星槎大学帯広サテライト
	専修学校等	北海道帯広高等技術専門学院、帯広文化専門学校、帯広調理師専門学校、帯広市医師会看護高等専修学校、帯広高等看護学院、帯広コア専門学校、北海道社会事業協会帯広看護専門学校、帯広美術工芸学院
	高等学校	道立 5 校、市立 1 校、私立 2 校
	小中学校	小学校 26 校、中学校 15 校
	特別支援学校	北海道帯広盲学校、北海道帯広聾学校、北海道帯広養護学校
	幼稚園	14 施設
文化 スポーツ	文化・社会教育施設	道立帯広美術館、とがちプラザ、図書館、動物園、児童会館、百年記念館、市民文化ホール、市民ギャラリー、植村直己記念館、埋蔵文化財センター、生活館、岩内自然の村山の家、おびひろグリーンステージ
	スポーツ施設	総合体育館、帯広の森運動施設(明治北海道十勝オーバル(屋内スピードスケート場)、体育館、アイスアリーナ、スポーツセンター、陸上競技場、弓道場・アーチェリー場、研修センター、プール、野球場、テニスコート、球技場など)、伏古別公園野球場、すぱーく帯広、南町テニスコート場、自由が丘公園庭球場、南町球場、帯広の森平和球場、十勝川河川敷運動施設、札内川河川敷運動施設
産業 経済等	観光施設	ばんえい競馬、とがちむら、愛国駅・幸福駅、岩内仙峡、ポロシリ自然公園、緑ヶ丘公園、北の屋台
	商業施設	(店舗面積 1,000 m ² 超) 50 店舗
	農業施設	農業技術センター、とがち大平原交流センター、帯広の森市民農園サラダ館、八千代公共育成牧場、畜産研修センター、畜産物加工研修センター
	映画館	2 施設(うちシネマコンプレックス 1 施設)
	流通施設	帯広地方卸売市場など
	宿泊施設	(収容人数 100 人以上) 13 施設
	金融機関等	銀行等 37 店舗、農協系金融機関 9 店舗、郵便局 34 店舗 日本銀行釧路支店帯広事務所
テレビ・FM	ケーブルテレビ 1 局、コミュニティ FM 2 局	

2 都市機能の利用状況

本市の都市機能の利用状況は、概ね以下のとおりです。

(1) 一次救急医療の利用状況

[平成 21 年度]

	夜間急病センター 患者数	在宅当番医 患者数	一次救急合計 患者数	構成比
帯広市内	3,711 人	13,757 人	17,468 人	67.82%
管内町村	1,498 人	5,852 人	7,350 人	28.54%
その他	257 人	681 人	938 人	3.64%
合計	5,466 人	20,290 人	25,756 人	100.00%

[市健康推進課調]

(2) 二次救急医療の利用状況

[平成 21 年度]

	患者数	構成比
帯広市内	2,760 人	54.73%
管内町村	2,036 人	40.37%
その他	247 人	4.90%
合計	5,043 人	100.00%

[市健康推進課調]

(3) 帯広市図書館の利用登録状況 [平成 21 年度末現在]

	利用登録者数	構成比
帯広市内	48,444 人	80.75%
管内町村	11,479 人	19.14%
その他(管外)	66 人	0.11%
合計	59,989 人	100.0%

[市図書館調]

(4) 帯広の森運動施設区の主な施設の利用状況

[平成 21 年度]

施設名	利用者数※	施設名	利用者数※
明治北海道十勝オーバル ※	175,784 人	帯広の森野球場	47,419 人
帯広の森アイスアリーナ	62,607 人	帯広の森テニスコート	124,289 人
帯広の森第二アイスアリーナ	34,276 人	帯広の森市民プール	148,996 人
帯広の森体育館	93,990 人	帯広の森弓道場・7-チリ-場	25,902 人
帯広の森陸上競技場	61,687 人	帯広の森スポーツセンター	42,023 人
帯広の森球技場	19,228 人	帯広の森研修センター	14,366 人

[市スポーツ振興室調]

※ 利用者数は、市内外を問わず、施設の利用者と入場者(観覧者)を合計したものです。

※ 明治北海道十勝オーバルは、平成 21 年 9 月 1 日開館。

3 周辺町村との連携を想定する取組

帯広市が周辺町村と連携することを想定する取組は次のとおりです。なお、取組の詳細については、連携する町村と協議のうえ決定します。

(1) 生活機能の強化に関する取組

①医療

圏域住民の安全・安心な生活を確保するため、地域の医療体制や救急医療体制の充実などについて、連携して取組をすすめます。

②福祉

圏域住民が住み慣れた地域で安心して子どもを産み育てることができ、生き生きと暮らせる環境をつくるため、子育て支援の充実や福祉関連施設の運営などについて、連携して取組をすすめます。

③教育

圏域住民が生涯を通して学べる機会の充実を図るため、図書館など教育施設の共同利用や文化・スポーツ・体験学習事業の実施などについて、連携して取組をすすめます。

④産業振興

圏域経済の活性化と発展を図るため、農商工・産学官の連携、地域ブランドの確立、観光客の誘致、企業の誘致、雇用の確保などについて、連携して取組をすすめます。

⑤その他

上記に掲げるもののほか、低炭素社会の実現に向けた環境保全への取組など生活機能の強化に関して、連携して取組をすすめます。

(2) 結びつきやネットワークの強化に関する取組

①地域公共交通

圏域住民の日常生活における移動手段を確保するため、バスなど公共交通の活性化について、連携して取組をすすめます。

②ICTインフラ整備

圏域住民及び圏域外住民へのICTの活用による効果的なサービスの提供を促進するため、観光情報のネットワーク化などについて、連携して取組をすすめます。

③道路等の交通インフラ整備

圏域内外の交流促進や利便性の向上を図るため、高速 IC を生かした地域振興と整備促進などについて、連携した取組をすすめます。

④地域の生産者や消費者等の連携による地産地消

地場農畜産物の消費拡大と地産地消を促進するため、販売システムの構築や地場産品愛用運動の展開などについて、連携して取組をすすめます。

⑤地域内外の住民との交流・移住促進

圏域内への移住・定住や圏域外住民との交流を促進するため、移住交流に関する体験事業の実施や一元的な情報の提供などについて、連携して取組をすすめます。

⑥その他

上記に掲げるもののほか、消費生活相談業務など結びつきやネットワークの強化に関して、連携して取組をすすめます。

(3) 圏域マネジメント能力強化に関する取組

①人材の育成・職員の交流

地域の担い手確保や自治体職員等の能力向上を図るため、圏域外の専門家の招へいや合同研修会の実施、自治体職員の研修や交流などについて、連携して取組をすすめます。

②その他

上記に掲げるもののほか、圏域マネジメント能力強化に関して、連携して取組をすすめます。

4 帯広市への通勤通学割合が0.1以上である町村

帯広市への通勤通学割合が0.1以上の町村は、次のとおりです。

・音更町 ・士幌町 ・清水町 ・芽室町 ・中札内村 ・幕別町 ・池田町

5 上記のほか、帯広市と連携する意思を有する町村

上記のほか、帯広市と連携する意思を有する町村は、次のとおりです。

・上士幌町 ・鹿追町 ・新得町 ・更別村 ・大樹町 ・広尾町
・豊頃町 ・本別町 ・足寄町 ・陸別町 ・浦幌町